



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和4年2月14日発行

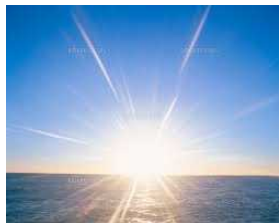
◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
 ~花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子~



阿木名小中学校

2月に入り

校長 井上 泉



力強く生きたいと思った。くたびれて、疲れ果てて
 自分に負けそうになりながら、幾たびも、幾たびも思い直して
 もっと力強く進みたいと思った。

そして新しい朝がくると、その新しい朝が笑いかけてくれた。

汚れていない、新鮮な風と光が

いつでも向こうから声をかけてくれた

みんなへ

目標は君が選んだのだよ

だから、たとえ君が目をつむってもその目標は決して消えないものだよ。

自分で選んだひとつの大事な目標が、

向こうから私たちを救ってくれるのだ。

(作者不詳)



令和4年が始まり、早くも2月をおかえました。慌ただしい3学期、月日の経つ早さを感じます。子どもたちも心機一転、「よし頑張ろう」と思っていた決意も、少しほころびが見えてくる時期でもあります。ここを踏ん張れる人になってほしいと願います。

ある若い漁師さんが「自分は足の裏が光っている人になりたい」と話しました。その意味は「見えないところが光るくらい磨いていたい。普段見えないところが光っているってかっこいいと思う」と…。

人は誰でも心の中に弱さやずるさをもっています。だから見えないところでいい加減になったり、ついサボったりしてしまいます。そんな心があることがわかっていながら、そうではない生き方や考え方ができる人は、すばらしいと思います。見えないところこそ、きちんとできる人であれば、いろいろな困難にも立ち向かえる心の強さが育つのではないかと思います。学習でも作業でも人前だけきちんとして、人のいないところではいい加減になる。それでは、自分の身にならず、ましてや成長にはつながらないものです。

子どもたちには、人が見ているか見えていなくても、どんな時でもあたりまえのことがあたりまえにできる人になってほしいと願います。

児童会：朝のあいさつ運動

朝日を浴びて子どもたちの
 元気なあいさつが響いています。

